



秋申だより

2024年(令和6年)4月8日

藤沢市立秋葉台中学校

校長 千葉 雄一

よろしくお願いいたします

令和6年度も引き続き秋葉台中学校の校長を務めさせていただくことになりました。秋中の校長として、3年目になりますが、地域の皆様、保護者の皆様、今年度もよろしくお願いいたします。

これまでの取り組みで、今年度より秋小と秋中にそれぞれあった学校運営協議会がひとつになり遠藤地区学校運営協議会としてスタートいたします。また、昨年度、保護者の皆様と協議を重ねた結果、PTAが発展的解消に至ったため、今年度より本校ではPTA組織がなくなりボランティア制が導入されます。さらに、スクリレの導入、校納金の代金収納システムの導入など、さまざまな改革に取り組んで参りました。

今年度もより良い学校をめざして、できることは迅速に対応していきたいと考えております。地域の皆様や保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

秋葉台中学校の今年度の重点目標や努力点は右記の通りです。本校のホームページには、「グランドデザイン」や「本校生徒がめざす生徒像と教育目標に到達するためのキーワードについて」が掲載されています。そちらもあわせてご覧いただくと幸いです。

秋葉台中学校の教育目標

教育目標

- (1) すすんで学ぶ人となる
- (2) 健康な人となる
- (3) 心豊かな人となる

令和6年度の重点目標

- (1) 研究の成果をまとめ秋中モデルを提案する
- (2) SDGsの視点に基づく教育活動の推進
- (3) 平和教育の推進

努力点

生徒の育成に関して

- (1) 生徒を教育目標に近づける教育活動に努める
 - ・自主性を育む
 - ・自律の精神を育む
 - ・創造(想像)力を磨く
- (2) その「誰か」になる生徒の育成に努める。
- (3) 困難に負けない力の育成に努める。

教員のスキルに関して

- (1) 校内研究を推進し、さらなる授業改善に努める。
 - ・ICT機器を活用し、生徒の主体的な学習を促し学力の向上に努める。
- (2) 事故防止・不祥事防止などリスク管理能力の向上に努める。
- (3) 問題発生時の危機管理能力の向上

令和6年度・着任式・始業式

4月5日の午前、着任式が行われ4月1日付けで着任した4名の教職員を秋葉台中学校に迎えました。着任式に引き続き行われた始業式では2・3年生ともにそれぞれ進級した自覚が充分に感じられました。整列や話を聞く姿勢なども素晴らしく、誰がやってもいいことを進んでできるその「誰か」になってほしいという話をしっかりと聞いてくれました。3月の修了式から11日しかたっていないのですが、2・3年生としての自覚を感じることができました。3年生は秋葉台中学校の「顔」として、2年生は3年生と1年生をつなぐパイプ役としての役割をしっかりと果たしてもらいたいと思います。その後に行われた担任発表も和やかな雰囲気、拍手が起こるなど生徒と職員の関係の良

さを感じることができました。



クラス発表の様子



着任式



始業式



担任発表

令和6年度・入学式

4月5日の午後、第49回の入学式が行われました。近年、桜の開花がだんだんと早まるなか、例年よりやや遅く開花した桜の花が、新入生の入学を祝うかのように咲いていました。新入生一人ひとりの表情からは、これから始まる中学校生活に期待を膨らませている様子を感じられました。新入生には、豊かな心を持ち、授業を大切にして、きまりを守れるように頑張ってもらいたいと思います。新入生代表の知久紗玖耶さんのことからは、これからの3年間で充実したものになろうとする意欲を感じることができました。



入学式の様子



最初の学活・1組



最初の学活・2組



最初の学活・3組

オッペンハイマーを観て思ったこと

先日、アカデミー賞を受賞して話題となった映画『オッペンハイマー』を劇場に観に行きました。この映画は、世界初の原子爆弾を開発した「原爆の父」として知られる理論物理学者ロバート・オッペンハイマーの生涯を描いた作品です。

この映画を観る前は、オッペンハイマーが原爆を開発さえしなければ、この世の中に核兵器が生み出されることもなく、広島や長崎に原爆が投下されることもなかったのではないかと考えていました。しかしながら、映画を観終えたあといろいろと考えを巡らせているうちに、少し考えが変わりました。原子爆弾はオッペンハイマーが開発しなくても遅かれ早かれソ連やドイツの科学者が開発したであろうということ。原爆を開発したのはオッペンハイマーですが、原爆を広島と長崎に投下することを許可したのはオッペンハイマーではなく、ときの大統領トルーマンです。原爆が作られても使用しない選択肢もあったはず。そこからすると原爆を使うか使わないかの判断は大統領がするわけです。民主主義の世の中では、政治家に権力を与えるのは主権者である国民です。トルーマンを大統領に選んだのはときのアメリカ国民です。今を生きる我々も世界の平和のために、どのような人に一票を投じれば良いか主権者としてよく考えなければならぬと思いました。

※正確にはトルーマンは第二次世界大戦中ルーズベルト大統領の死去に伴い副大統領から大統領に昇格し戦後再選を果たした。